



医療経済・社会科学 No.1

医療費・高齢化・行動経済学

—— 日本の医療システムをデータで読む

 **今日のゴール：** 日本の国民医療費・高齢化・医療保険制度の現状をデータで把握し、「なぜ医療費が増え続けるのか」「誰が負担しているのか」を説明できるようになる。さらに行動経済学（ナッジ）が医療政策にどう使われているかを理解し、面接・小論文で「医療システムを俯瞰できる視点」を示す。

 **新課程対応版（2026年改訂）** | ナッジ・行動経済学の概念は新課程「公共」「政治経済」に登場しています。本講座では医療行動・政策設計への定量的応用まで完成させます。


 この授業の問い

1. 日本の国民医療費は年間いくらか？なぜ増え続けているのか？
2. 日本の医療保険制度（国民皆保険）の仕組みと課題は何か？
3. 行動経済学の「ナッジ」は医療政策にどう使われているか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 日本の医療費：数字で見る現実 **押さえておくべき数字（2023年度基準）**

- ・ 国民医療費：約46兆円（GDP比 約8.5%）
- ・ 1人当たり年間医療費：約37万円
- ・ 高齢者（75歳以上）の1人当たり医療費：現役世代の約5倍
- ・ 医療費の財源内訳：保険料 約50%、公費（税）約38%、患者自己負担 約12%
- ・ 社会保障費全体：国家予算の約33%（最大の歳出項目）

 **面接での活用：** 「日本の医療費について教えてください」に「年間約46兆円でGDPの8.5%、そのうち75歳以上の高齢者が現役の5倍の医療費を使っています。高齢化が進む中、財源の持続可能性が最大の課題です」と答えられると数字を知っている印象を与える。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 医療費・高齢化・行動経済学で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

医療費・高齢化・行動経済学では、*行動経済学の医療政策への応用根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 医療費・高齢化・行動経済学で採点者が見ているポイント

「ナッジ理論を使った予防行動促進策の根拠を行動経済学の枠組みで示した答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所